

特集

# 令和4年度 森林・林業白書の公表

～「気候変動に対応したこれからの治山事業」を特集～

5月30日に、「令和4年度森林・林業白書」（令和4年度森林及び林業の動向、令和5年度森林及び林業施策）が閣議決定されましたので、その概要について、構成に沿って紹介します。

国民の皆様理解を深めていただけるよう、特集では一つのテーマを深掘りして記述するとともに、通常章で森林・林業・木材産業全体について体系的に記述・分析しています。また、図表、写真、事例等を盛り込み、読みやすい白書となるよう心掛けています。この記事に関心を持った箇所がありましたら本文も是非お読みください。

写真上：手取川地区民有林直轄治山事業、海外製8輪駆動ハーベスタ、写真下：大子町庁舎、安芸太田町

# 特集の掲載開始以来はじめて治山がテーマに！

今回の白書の特集には治山対策を取り上げました。森林を維持・復旧する治山事業は、山地災害から国民の生命・財産を守ることに寄与しています。一方で、近年の気候変動に伴い山地災害が激甚化してきており、災害に対して更に強靱な国土を作っていくことが求められています。そこで、これまでの治山対策の取組と成果を整理するとともに、気候変動に対応したこれからの対策の方向性を紹介しています。なお、治山をテーマとして特集を組むのは昭和47年に特集の掲載を始めて以来初となります。

## 1 森林の機能と治山事業の役割

第1節では、森林が国土保全機能を発揮する仕組みや、国土保全機能を維持・向上させる治山対策の内容を紹介しています。



治山事業の主な工法

## 2 これまでの治山事業の取組と成果

第2節では、明治時代に始まる治山対策の歴史を振り返るとともに、その成果として、かつて森林が荒廃していた時代に比べて現代の日本の国土が山地災害に強い状況に変化してきていることを紹介しています。例えば、長野県伊那谷地域では、令和2年と昭和36年の豪雨を比較して、同等以上の豪雨に見舞われたものの山地災害の発生箇所は大幅に減少しています。また、全国的にも山腹崩壊の発生面積はこの約50年間で年平均約1・1万haから約320haへと減少しています。このようなデータによって、普段は目立たない治山対策の効果を知らせていただきたいと思います。



### 戦前に着手された治山事業の例 (滋賀県大津市・田上山の治山)



森林の荒廃状況 (大正2 (1913) 年)



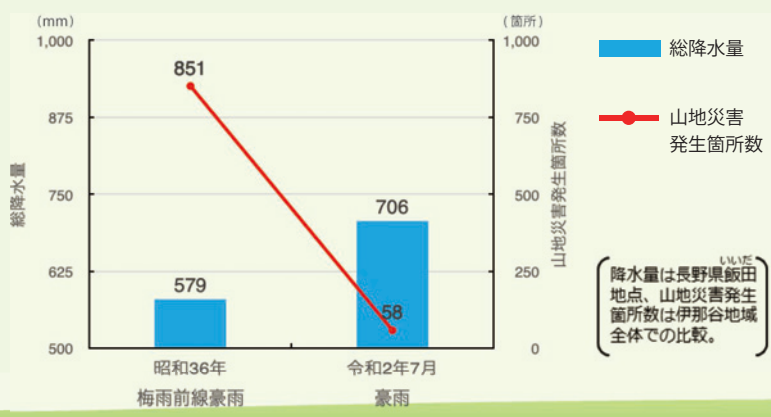
山腹工の施工 (大正6 (1917) 年)



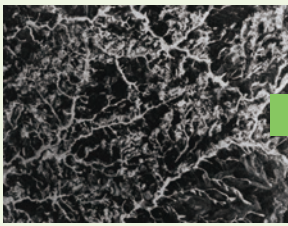
森林の回復 (平成30 (2018) 年)



### 長野県伊那谷地域における山地災害の減少



昭和36年 梅雨前線豪雨

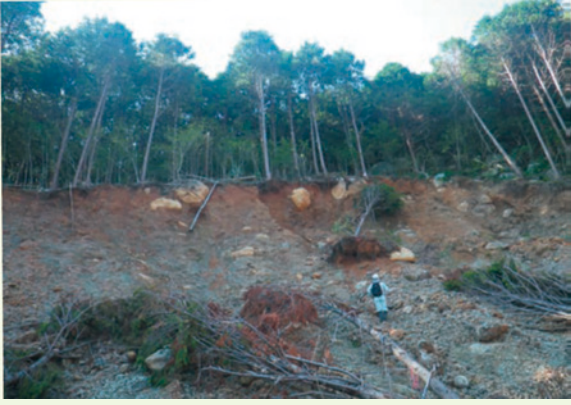


令和2年 7月豪雨



### 3 気候変動による山地災害の激甚化・形態変化

第3節では、近年の気候変動による山地災害の激甚化・形態変化について解説しています。森林の成長により毎年の崩壊箇所数は減ったものの、大雨等の増加により、これまでよりも深い層からの崩壊が発生する、溪流が深く侵食されることで土砂や流木の発生が多くなる、線状降水帯の発生等により山地災害が同時多発化するといった変化がみられます。林野庁として、これらの特徴を分析し、効果的な事前防災のために重点的に取り組むべき方向性を取りまとめ、施策に反映させました。



表層よりもやや深い層からの崩壊  
(平成29年7月九州北部豪雨)

#### 溪流の侵食量の増加とその対応方向



令和元年東日本台風  
(溪流の縦侵食2~3m)



小規模な治山ダムを階段状に配置



流木捕捉式治山ダムの整備

### 4 気候変動等に対応したこれからの治山対策

第4節では、治山対策の具体的な取組を紹介しています。国土強靱化に向けた対策が実際に災害を軽減していることや、あらゆる関係者が協働して水を軽減させる「流域治水」と連携していること、ICT技術を活用して効率的な事業に取り組んでいること、地域住民への情報提供などのソフト対策を行っていることを紹介しています。

### 5 森林・林業施策主体で進める災害に強い地域づくり

第5節では、森林・林業施策全体で災害に強い地域づくりを進めていることを紹介しています。森林の機能を適切に発揮させるため、治山対策だけでなく、森林計画制度による適正な施業の確保や多様な森林づくり、森林整備事業等による間伐や再造林を進めています。災害に強い林道の整備は豪雨などの際に代替路の役割を果たします。また、森林の整備・保全是、ここまですで紹介したように気候変動の影響への適応策となっていると同時に、二酸化炭素の吸収・固定を促すことで



山地災害の同時多発化  
(平成30年7月豪雨)



小学校と連携した防災講座

気候変動の緩和策ともなっています。このように防災・減災を含めて国民生活に様々な恩恵をもたらす「緑の社会資本」である森林を適切に整備・保全することにより、持続可能な地域づくりに貢献していくこととされています。

# トピックス

## ① 太陽光発電の適正な導入に向けた林地開発許可制度の見直し

近年、太陽光発電設備の導入を目的とした林地開発が増加し、災害や景観等への懸念から制度の見直しを求める声が高まってきたことから、令和元年に許可基準の整備を行いました。さらに、その後の状況について令和4年に検証・分析を行い、太陽光発電設備の設置に係る土砂流出の発生状況等を踏

## ② しいたけの植菌地を原産地とする表示がスタート

近年は海外で植菌・培養された輸入菌床に由来するしいたけが増えてきており、国内で植菌・培養された菌床に由来するしいたけと区別できない状況になってきたことから、消費者の合理的な判断に資するよう、しいたけの原産地表示を、「採取地」ではなく「植菌地」とするルールに改正しました。

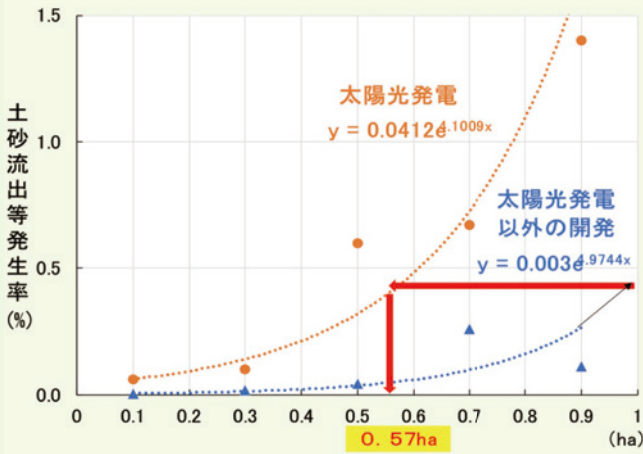
まえ、知事の許可を要する基準面積を1ha超から0.5ha超に引き下げました。

## ③ 林業従事者が生きがいを持って働ける魅力ある林業へ

「林業労働力の確保の促進に関する基本方針」の変更に

人口減少や高齢化が急速に進展する中で、将来にわたり森林を適切に整備・保全していくためには、その担い手となる林業労働力の確保が重要な課題となっています。こうした中、林業労働力の確保の促進に関する基本方針を変更し、造林やICTの技術を有する者の育成、労働安全対策のほか、女性の活躍、外国人材の適正な受入れ等を明記しました。

小規模林地開発地の面積と土砂流出等の発生割合



海外から輸入した菌床の場合



## ④ J-クレジット制度の活用等を通じて森林整備と企業等の脱炭素の取組の好循環を創出

温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして国が認証するJ-ク



チェーンソーの安全な使い方を研修



樹木採取区でのコンテナ苗による再造林

## ⑤ 国有林野における樹木採取権制度による事業がスタート

国有林野において、樹木採取権制度による事業が全国8か所でスタートしました。樹木採取権者の経営基盤の強化に加え、地域における木材のサプライチェーンの強化にもつながることが期待されます。



認証審査の現地確認 (九州電力)

クレジット制度において、森林整備でのクレジットを創出しやすくするように、主伐後再造林する場合は将来の吸収分を排出量から控除する等のルール改正を行いました。

## 第一章 森林の整備・保全

### 森林の整備・保全

SDGsや2050年カーボンニュートラルに貢献する森林の多面的機能や、その発揮に向けた森林の整備・保全の動向、国際的な取組について記述しています。特に、森林経営管理制度による市町村を介した経営の受委託や、森林環境譲与税を活用した取組が、年々着実に進展していることについて、多くの事例を交えて紹介しています。



森林経営管理制度による主伐（矢板市）

## 第二章 林業と山村（中山間地域）

### 林業と山村（中山間地域）

林業や特用林産物、山村（中山間地域）の動向について記述しています。



健康ウォーキング（長野県木曾町）



苗木運搬用のドローン（阿蘇森林組合）

特に、令和3年は輸入木材の不足により国産材の価格が上昇したことから林業産出額がここ20年で最高の水準となったことや、林業経営の効率化に向けて施業の集約化や「新しい林業」への取組を推進していること、山村の活性化に向けて地域資源の発掘と付加価値向上の取組や「森林サービス産業」の創出等を支援していること等を紹介しています。

## 第三章 木材需給・利用と木材産業

### 木材需給・利用と木材産業

木材需給、木材利用と木材産業の動向について記述しています。特に、違法伐採対策に関してクリーンウッド法の見直しが行われたことや、近年進展している非住宅・中高層建築物の木造化・木質化の事例、令和3年における輸入木材の不足・価格高騰を受けて製材業等で国産材の利用を増やしている事例等を紹介しています。



中高層建築物の木材利用  
(写真提供：株式会社ジュテック)

## 第四章 国有林野の管理経営

### 国有林野の管理経営

国有林野が公益重視の管理経営を推進していることや、民有林への技術の普及等により森林・林業施策の推進に貢献していること等を紹介しています。

## 第五章 東日本大震災からの復興

### 東日本大震災からの復興

海岸防災林等の復旧が進展していることや、しいたけ原木林等の再生に向けた取組、安全な特用林産物の供給に向けた体制整備等を紹介しています。

※ 白書の全文と概要を林野庁ホームページに掲載しています。また、本公表にあわせて、過去の白書を含めて一括でキーワード検索できるサイトを林野庁ホームページ内に開設しましたので、ご利用ください。

令和4年度森林・林業白書全文

<https://www.rinyamaff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/4-hakusyo/>



過去の森林・林業白書  
(一括検索サービス)

<https://www.rinyamaff.go.jp/j/kikaku/old-hakusho-search/>

